

て明暗の二力が世界を造成せりといひ、更に明暗各五個の數を數ふるに至りては、既に吾人をして此教義がマニ教なるべきを思はしむるに足る。今試みに亞刺比亞のアブル、ファラーヂュ (Aboul Farage) が、其の著フイーリスト (Fihrist al'ulam) の中に説けるマニ教の世界生成説と之を對比すべし。

因みに云ふ、マニ教の教義系統を説けるもの、西紀十世紀末にアブル、ファラーヂュが此書に記せるより以前既に多し、されど彼等は皆基督教徒の著者にして、此の教を以て基督教より發生せしものとせる偏見は、屢々捏造の記述、偏頗の論議を敢てせしむるものあり、されば近時の學者多くは之を取らずして、遙かに後世のアブルファラーヂュに據れり、これその記載の公平なると、史料の根本的なるに信頼すればなり、余が特に此著者に據るものも亦此故に外ならず。

『マニ説て曰く、世の初めは明暗二力の作る處なり、兩者互ひに相別れて存し、共に廣大無邊なり、神は明界樂園の王にして、溫和 (Sanftmuth) 智識 (Wissen) 悟性 (Verstand) 祕密 (Geheimniss) 聰明 (Einsicht) 及び愛 (Liebe) 信 (Glauben) 忠實 (Treue) 寬恕 (Edelsinn) 賢明 (Weisheit) なる各五個の從屬 (Glieder) を有せり、此明神と共に空間と地とありて亦各五個の從屬を有す、前者に屬するものは、溫和、知識、悟性、祕密、聰明にして後者は氣 (leise Lufthauch) 風 (Wind) 光 (Licht) 水 (Wasser) 及び火 (Feuer) なり、明に對して暗あり、其從屬は霧 (Nebel) 猛火 (Brand) 暴風 (Glühwind) 毒 (Gift) 及び暗黒 (Finsterniss) なり…… (暗界の惡魔は常に上方明界に向ひて害惡を加へんとす)、神は惡魔を征せんとして、其五從屬、十二行 (Element) 及び一原人 (Geschöpf = Urmensch) に命じて暗と戦はしむ、原人乃ち氣、風、光、水、火を以て武装し、……暗界に突下